

道徳の授業に関する Q&A 「道徳性の発達に関する児童生徒の評価はどのようにすればいいのですか」

これは児童生徒、個々の評価という点で、通知表への記述を意識した問いであるように感じられます。教師として学期末には全児童生徒の伸びや次への課題を明らかにして、個々の子供はもちろんのこと、保護者にも学校での様子が伝わるように、通知表に記述する必要があります。道徳が小学校は平成 30 年度から、中学校は平成 31 年度から教科化されるにあたり、やはり気になるところです。

まず通知表に限って述べれば、児童生徒の評価は文章による記述となります。道徳性の評価は数値になじまないからです。この点に関する説明も、様々な点からなされることができます。例えば、道徳性は多面的である点から考えてみるのはどうでしょうか。自主自律の面から時間を守る点で立派な子供が、他面で仲間への思いやりに欠く場合があります。時間を守る点だけとって、授業開始時間は守れるが給食の終了時間は守れない、学校内の時間は守れるが仲間内の私生活ではルーズで有名、といったケースもあるでしょう。理由付けの観点からはどうでしょうか。理由付けにも道徳性が現れますが、大人であってもあやういと感じられることはないでしょうか。例えば、規則は世の中で人間がより平等に、気持ちよく生活するために存在し、お互いの権利を尊重した社会を実現するために存在する、と説明し、納得して生きてはいても、自動車のアクセルを踏みすぎない理由は「警察につかまるのがいやだから。罰金を払いたくないから。」であったりします。これらの点から、数字で一面的、画一的に評価を下すことは十全でないことは明らかです。

ではどのような観点で個々の子供の評価を文章化していくのでしょうか。

それはまず、日々の成長と発達を把握できる教師ならではの、学期を通じた評価の記述を心がけることでしょう。例えば、特定の内容項目に関する考え方・価値観の変容、授業で見た葛藤が、別の場面での仲間との相互作用から解決された様子、授業で学んだ内容項目について、行事で実践的に価値観を高められた場面、また複数の教材間の関連や内容項目に現れた関連価値や他教科授業での学習内容への気づきに関する文章による記述などは、教師でなければ不可能です。さらにこうしたことを、だれにもわかりやすく、説得力ある裏付けとともに示せるということが、教師としての専門性でしょう。これを実現するために、確実に道徳の授業を実践し、子供の様子を観察したり、授業のワークシートのみならず生活日記の記述や行事の感想に目を通したりする必要があります。つまり日常からの資料の蓄積が必要ということです。

教科化によって検定教科書が導入されます。指導書も充実されることが予想されます。そうしたものを参考にして、教師としては授業で学ばせたいことと、日ごろの学校生活との結びつきを意識しやすくなるかもしれません。単に一単位時間の様子、それも子供の感想のみから評価を行ったような文章記述はつつまなければならぬでしょう。